

令和6年1月18日

各報道機関文教担当記者 殿

エジプトのサッカー遺跡で 古代エジプトの複数の墓を発見

金沢大学新学術創成研究機構／古代文明・文化資源学研究所の河合望教授を隊長とする金沢大学・エジプト観光考古省の合同調査隊は、2023年8月から9月までの調査において、エジプト有数の墓地であるサッカー遺跡の北部にて初期王朝時代第2王朝（前2700年頃）、新王国時代第18王朝初期（前1550年頃）、末期王朝時代（前7世紀～前4世紀）、プトレマイオス朝時代（前4世紀～前1世紀頃）、ローマ支配時代前期（前1世紀～後2世紀頃）の複数の墓を発見しました。

本調査隊は、2017年より新王国時代の墓地をサッカー遺跡北部の東側斜面にて発掘調査を行っており、2019年にはサッカー遺跡で最初のプトレマイオス朝時代末からローマ支配時代に年代づけられるカタコンベ（集団墓地）（※1）を発見しました。カタコンベは発見後天井の岩盤が脆弱で十分な保護が必要であったことと、コロナ禍により約4年間調査が中断したことから、ようやく昨年8月から本格的な発掘調査を再開し、内部で複数のギリシア語が書かれたステラ（石碑）が確認され、カルトゥナーージュ製のミイラ・マスク2点やテラコッタ製の神々の像などの遺物が出土しました。カタコンベの外の調査では、第2王朝に年代づけられる木棺の中に屈葬された人物が埋葬された岩窟墓、第18王朝初期の複数の埋葬、ミイラ・マスクを付けた末期王朝時代の埋葬、プトレマイオス朝時代の日干レンガ製の墓、ローマ支配時代のミイラの埋葬などが発見されました。

発掘区は、これまで全く考古学的発掘調査が行われてこなかった場所であり、今回の調査で、サッカー遺跡北部の東側斜面に、初期王朝時代から約3000年間のさまざまな時代の墓が埋蔵されている可能性が示されました。今後の発掘調査により、サッカー遺跡における墓地の形成と展開がさらに明らかになることが期待されます。

なお、本調査研究は、東日本国際大学、早稲田大学、近畿大学、国立科学博物館、東京都立大学、東京電機大学、東京藝術大学、明治大学、東京文化財研究所、カイロ・アメリカン大学、イェール大学の研究者と共同で実施されたものです。

本研究成果は、2024年1月4日にエジプト政府観光考古省から公式に発表されました。

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（A）「エジプト、サッカラ遺跡の調査による古代エジプトの埋葬文化の変容に関する総合的研究」（課題番号 23H00014：研究代表者 河合望）の支援を受けて実施されました。

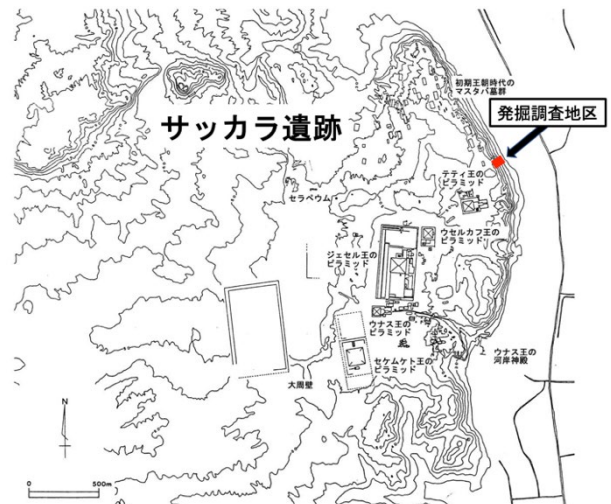


図 1. 発掘現場遠景（保護用の上屋の下にカタコンベの入口がある）



図2. 発掘現場全体図（3Dオルソ画像）



図3. カタコンベ内部エレベーション・オルソ画像（北側）



図4. 図5. カタコンベで発見されたギリシア語が書かれたステラ（石碑）

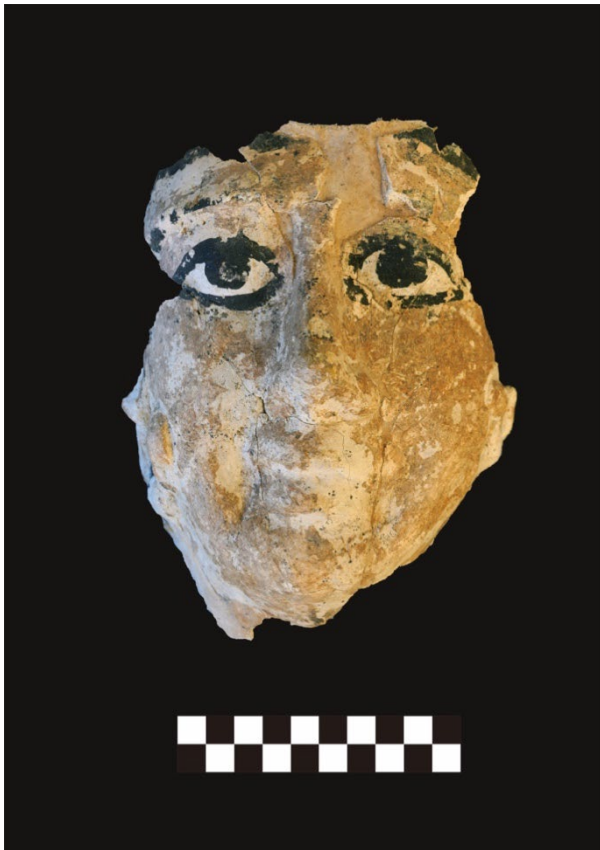


図6. 図7. カタコンベ出土のミイラマスク（左が女性、右が男性のもの）



図8. カタコンベ出土のテラコッタ製像



図 9. 第 2 王朝の岩窟墓の屈葬



図 10. 末期王朝時代のミイラマスクを付けた埋葬



図 11. プトレマイオス朝時代の日干レンガ墓

【用語解説】

※ 1 カタコンベ (集団墓地)

イタリア語で地下の墓所を意味する。死者を埋葬した洞窟，岩窟全般を指す。

【本件に関するお問い合わせ先】

■ 研究内容に関すること

金沢大学 新学術創成研究機構 教授／古代文明・文化資源学研究所 所長
河合 望 (かわい のぞむ)

TEL : 076-264-5859

E-mail : nozomu.kawai@staff.kanazawa-u.ac.jp

■ 広報担当

金沢大学研究・社会共創推進部研究推進課研究推進総務係
山本 由紀子 (やまもと ゆきこ)

TEL : 076-264-5296

FAX : 076-234-4016

E-mail : rinfi@adm.kanazawa-u.ac.jp